

群 教 七	G11 - 01
	平25.251集
	小・特別活動

# 互いのよさを認め合いながら 自由な意見交換ができる特別活動の工夫

—簡易的なテレビ会議システムを活用した  
学校間交流を通して—

特別研修員 木島 剛一

## I 主題設定の理由

本校児童は、低学年以外は単学級のまま進級していくため、同年齢の多様な集団で活動する機会が不足している。そのため、人間関係が固定化されてしまうなどの課題がある。望ましい人間関係を築く態度を形成するためには、より多くの児童と接し、児童が相互によさを認め合い、お互いのよさを伸ばし合えるような実践的な方法を取り入れた集団活動が必要である。

これらの理由から、同一中学校区内の隣接する小学校との学校間交流による学級間の情報交換や合同学級会を計画的に取り入れ、集団活動の幅を広げて特別活動を行いたいと考えた。しかし、時間の制約がある中で交流の機会を増やすためには、手軽に交流できる手段が必要である。そこで、移動をとまわず容易に学校間交流をするための手段として、大型テレビとタブレット端末を用いた簡易的なテレビ会議システム（以下、『Kシステム』）を使用し、段階的に交流（学校間情報交換、合同学級会）を図った後、本年度より実施することとなった東西小学校合同林間学校につなげていくこととした。

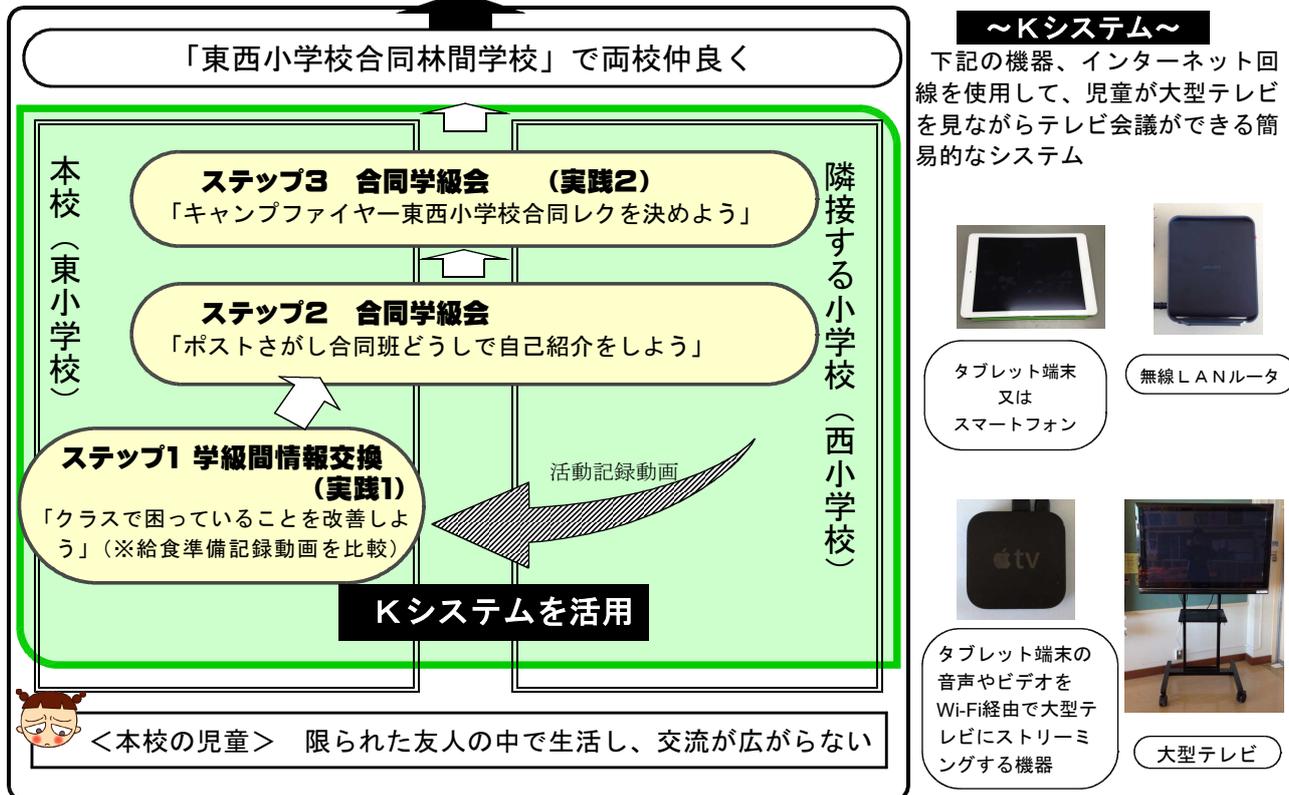
上記の取組が、互いのよさを認め合いながら自由な意見交換ができる児童を育成する上で有効であるかを実践を通して明らかにしたいと考え、本主題を設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図

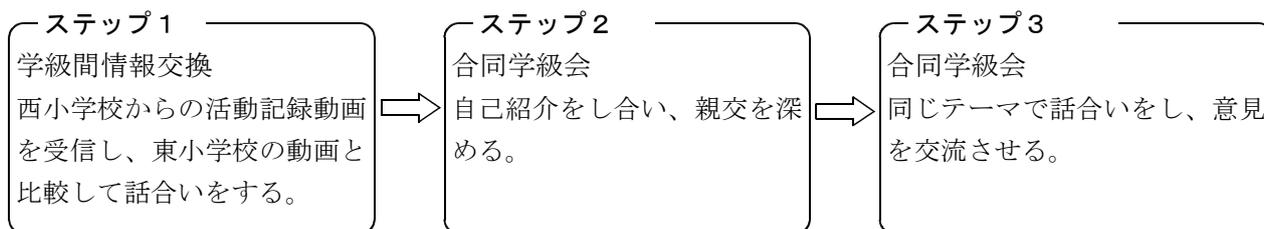
目指す児童像

互いのよさを認め合いながら、自由な意見交換ができる



## 2 授業改善に向けた手だて

11月に実施される東西小学校合同の林間学校にむけて、東西小学校の5学年児童同士がKシステムを活用して、以下のように段階的に交流を図る場面を設定した。



### ステップ1(実践1)

「クラスで困っていることを改善しよう」という題材で、計画委員を中心とした話し合いの授業を行った。議題は、児童からのアンケートにより、「給食の準備をはやくするためにはどうしたらよいか」に決定した。そこで、単学級における集団活動の幅を広げるために以下の点に留意して実践を試みた。

#### ステップ1における研究上の手だて

話し合いを深めるために必要な情報をタブレット端末で収集し、大型テレビで共有する。

- ・事前に計画委員がタブレット端末を用いて撮影した東小学校の給食準備の様子を視聴後に、話し合いを始める。
- ・話し合いの途中で、西小学校の取組が映された活動記録動画を視聴する。

### ステップ2

11月に行われる東西小学校合同の林間学校に向けて、東西小学校の合同班を結成し、Kシステムを使ってお互いが自己紹介をし合った。趣味や特技について質問をしたり、班長を選出したりした(図1)。



図1 自己紹介の様子

### ステップ3(実践2)

「思い出に残るキャンプファイヤーになるように、東西小学校の合同レクを決めよう」という共通の議題のもと、東西小学校が同じ時間に話し合いを行い、Kシステムを使用して意見を交流させた。

#### ステップ3における研究上の手だて

Kシステムを活用した合同学級会で、東西小学校がお互いの意見を比較・検討できるようにする。

- ・事前に東西小学校の教師間で話し合い、交流させる場面を設定する。

## Ⅲ 研究のまとめ

### 1 成果

- 合同学級会において、西小学校の児童の考え方を東小学校の児童が尊重しながら意見を述べる様子が見られた。
- 東西小学校合同林間学校では、西小学校の児童に自分から話しかける児童が多く見られた。また、東西小学校の児童に、協同で行事を成功させようとする姿が見られた。

### 2 課題

- 話し合いの時間を十分確保するために、活動記録動画の内容を編集・精選する必要がある。
- Kシステムを使用した交流が複数相手であったので、相手と目が合わなかったり、あいづちが分かりにくかったりした。場面に応じて1対1で意見交換するなどの工夫が必要である。

### 3 Kシステムのさらなる活用に向けて

今後、広く普及しているスマートフォンと、Kシステムを組み合わせることで、交流する対象を他の学校だけでなく、国語科や社会科で情報や意見を交換するなど、地域の方などとの交流へと発展させることができる。

## IV 実践及び改善の実際

### 実践 1

#### 1 題材名 「クラスで困っていることを改善しよう。」(第5学年・1学期)

内容(1)ア(学校や学級における生活上の諸問題の解決)

#### 2 本単元及び本時について

本学級は単学級であり、話し合いの場面では、意欲的に発言する児童が固定化してしまい、多様な意見が出にくいことが課題である。本題材では、クラスのなかで困っていることを出し合い、どのようにしていったらよいかを決定することにより、集団で活動することに充実感を味わい、集団の一員としての自覚とよりよい生活を目指していこうという態度を育てることをねらいとしている。話し合いを深めるために、本時の研究上の手だてを次のように具体化した。

#### 3 授業の実際

計画委員会を中心として以下のように事前の活動と本時の活動を行った。

##### ○ 事前の活動

[児童]

- ・活動計画を作成する。
- ・事前アンケートをとり、クラスの問題点から議題(給食準備をはやくしよう)を決定する。
- ・計画委員会を中心となって、給食準備の様子をタブレット端末で撮影する。

[教師]

- ・話し合いの柱や順番などが明確な活動計画になるように計画委員会を指導する。
- ・学級の実態を理解しやすい動画を計画委員会が撮影できるように助言をする。
- ・西小学校の5年生が給食準備をしている活動記録動画を送ってもらう。

##### ○ 本時の活動

- (1) 議題の提案理由・めあての確認
- (2) 話し合い
  - ・議題の確認
  - ・自分たちの給食準備の様子を視聴後、意見交換
  - ・西小学校の給食準備の様子を視聴後、意見交換
- (3) 意見の統合、意志決定
  - ・決定したことの確認
  - ・振り返り



図2 タブレット端末で撮影する児童



図3 活動記録動画を視聴する児童

#### 自分たちが給食準備をしている動画を見て、実態を客観的にとらえている様子

司会：みなさんが普段給食準備をしている様子を計画委員会が撮影しましたので、見てください。

<その後、計画委員(タブレット端末担当)が動画を再生した>

司会：これを見て、何か気付いたところがあったら意見を発表してください。

S1：給食準備をせずに、友達と話している人がいました。もっとはやく並べばいいと思います。

S2：牛乳やおかずと比べて、ご飯を持ってくる人が遅いために、配り始める時間が遅れていることに気づきました。牛乳を配るのは時間がかからないので、牛乳よりもご飯を優先して持つてくるといいと思います。

司会は、事前に伝えてあった「学級会の進行方法」に従って話し合いが活発に行われる工夫をした。自分たちが給食準備をしている様子を見た後に話し合いをすることで、実態を客観的にとらえて意見を述べる様子が見られた。また、動画から気付いた点を意見として述べるができるため、説得力のある説明をすることができた。

意見を出し合った後、西小学校からの活動記録動画を視聴し、話し合いを続けた。単学級であるため、他のクラスの取組を意欲的に取り入れようとする意見が多く出た。活動記録動画を視聴する前よりも、後の方が意欲的な話し合いになり、意見に広がりが見られた。

### 西小学校が給食準備をしている様子を視聴後、話し合いが深まる様子

司会：西小学校の様子をみて、意見がある人は発表してください。

S1：東小学校では、給食を配る人が決まっていますが、西小学校では、全員が並んで給食を配っていました。その方が、みんなで準備する意識が高まると思います。

S2：みんなが並んだら、きっと混み合ってしまうかもしれないけど、試しにやってみたらいいと思います。

S3：西小学校では、給食終了5分前には日直が前に出て合図をし、しゃべらずに給食を食べていました。いつも片付けが遅い人は、しゃべっているから遅いので、まねしたらいいと思います。

S4：賛成です。西小学校と同じにやってみて、うまくいけば続ければいいと思います。

#### ○ 事後の活動

話し合いで決めたルールを掲示し、クラス全員が実践をした。給食準備が改善されたかどうかの振り返りを帰りの会で確認した。

―― 児童の振り返りから ―――

- ・西小学校と同じようにみんなで配ったら、準備の時間が5分くらいはやくなったので、続けていきたいです。
- ・西小学校はどうやっていたのかわからないけど、最初に時間がかかるご飯から用意し、牛乳をあとから配ったらはやくなりました。西小学校にもためてもらいたいです。

## 4 考察

### ○成果

- ・東西小学校の実態を映した動画を視聴し、比較したことで、普段は発言をする機会が少ない児童も、意欲的に話し合いに参加する姿が見られた。
- ・本校と西小学校の給食準備の取組を比較したことで、西小学校のよいところを見つけ、意見に広がりをもつことができた。
- ・司会者が、進行に困った際に、教師に頼るのではなく、「進行方法」を確認しながら適切な投げかけをすることができていた。

### ○課題

- ・話し合いの時間をなるべく多くとるために、時間配分を改善する必要がある。そのために、活動記録動画を編集して、効果的な場面のみを提示した方がよかった。
- ・授業中に教師が計画委員にアドバイスする場面が多かった。子どもが主体となって行う場を増やすためにも、事前に計画委員との打ち合わせを綿密に行う必要がある。
- ・本時では、西小学校から活動記録動画を受信するのみだったが、児童からは、自分たちの取り組みを発信したいという意見もあった。事後の活動で、本校の給食準備が改善した様子を映し、西小学校に動画を送ると、児童がより充実感を味わうことができたと感じた。

## 実践 2

- 1 題材名 「思い出に残るキャンプファイヤーになるように、東西小学校の合同レクを決めよう」  
(第5学年・2学期)

### 2 本単元及び本時について

昨年度まで東西小学校の児童が交流をはかる学校行事はなかった。しかし、今年度から5学年で東西小学校合同の林間学校が実施されることになり、東西小学校の大多数の児童がはじめて交流する。そこで、林間学校を実施するにあたり、事前事後学習において本校と西小学校の5学年児童同士(本校は単学級、西小は2学級)で合同学級会を行い、計画をする際に西小学校の取組を参考にしたり、活動後に共に振り返ったりする学び合いを行う。本時は、キャンプファイヤーで行う東西小学校合同レクで何をするのかを決定するため、東西小学校の児童が、Kシステムを利用して交流する場を設定した。

### 3 授業の実際



図4 Kシステムによる交流場面の様子

事前に東西小学校の教師間で話し合い、交流の場面を以下のように計画した。

(1) 導入・・・5分

林間学校で行うキャンプファイヤーで行う合同レクの説明を教師が行う際に、大型テレビにキャンプファイヤーの画像を映し出し、臨場感をもたせた。

(2) クラスによる話し合い①・・・15分

交流を始める時間を明示し、計画委員会を中心とした話し合いを行った。事前に東西小学校の児童にアンケートをとり、計画委員会が次の2つのレクに絞り込んだ。

A:マイムマイム B:ジャンケン列車

それぞれのレクのプラス面とマイナス面を短冊の色で分けて計画委員会が黒板に貼った。最終的に、「B ジャンケン列車」が東小学校の希望として決定した。

(3) 東西小学校がKシステムで交流(図4)・・・15分

Kシステムを使用して、東西小学校の代表児童が、クラスで意思決定した案を発表し合い、決定するにあたってどんな意見が出たのかを出し合った。(交流の際、西小学校の1, 2組の児童は1つの教室に集まった。)

東小学校で出た課題に対して、西小学校で出た意見を聞いた。

(4) クラスによる話し合い②・・・7分

交流後、3名の本校児童が自分の意見を変えた。

(5) まとめ・・・3分

(3) で交流した東西小学校の意見 (プラス面○マイナス面△)		
東小学校A組(ジャンケン列車)	西小学校1組(ジャンケン列車)	西小学校2組(マイムマイム)
<p>A：マイムマイム 16人 ○男女一緒にできる。 ○勝ち負けがないからいい。 △隣の人しか交流する機会がない。 △手をつなぐだけだから顔が見られない。 △男女で手をつなぐのに抵抗がある人もいるのでは。</p> <p>B：ジャンケン列車 21人 ○交流できる相手が多い。 ○お互いに顔を見てじゃんけんができる。 △東西小学校同士で手をつなげない。</p>	<p>A：マイムマイム 11人 ○友情が深まる。 △手をつなぐ時など、差別的なことばが生まれないか心配。</p> <p>B：ジャンケン列車 26人 ○わくわくできる。 ○負けた人が応援すれば盛り上がる。 △負けるのが嫌だ。</p>	<p>A：マイムマイム ○キャンプファイヤーは火を囲むから面白い。 ○みんなで輪になると、仲間であることが実感できるから。</p> <p>B：ジャンケン列車 △勝ち負けがあって、負けた人が文句を言うから。</p>

東小学校A組と西小学校1組は、ジャンケン列車を希望し、西小学校2組は、マイムマイムを希望した。東小学校の意見、「男女で手をつなぐのが恥ずかしい」について、西小学校の児童の意見を聞いた。

西小学校の児童の考え方を東小学校の児童が尊重した交流場面
<p>T : 東小学校では、マイムマイムで、男女が手をつなぐのが恥ずかしいという意見が出たのですが、2組のみなさんは、どう考えていますか。</p> <p>西小全体：「大丈夫です。」</p> <p>東小全体：「えー。(驚き)」</p> <p>T : 西小学校の人で、理由が言える人は、手を挙げて発表してください。</p> <p>西小児童：2組がマイムマイムを選んだ理由として、2番目に多かったのは、「友達と手をつなぐことで、絆が深まる」ということでした。だから、男女で手をつないでも大丈夫だと思います。</p> <p>T : 今の西小学校の人の意見と同じ考えの人は手を挙げて。(東小学校の児童10名程度が手を挙げ、その様子を西小学校の児童が見る。) 東小の児童で、今の意見について、どう思ったか発表してくれる人はいますか。</p> <p>東小児童：西小学校の子が言うように、男女気にせずに手をつなぐことで、友達になれるかかもしれないと思いました。</p>

#### 4 考察

##### ○成果

- ・Kシステムを使用し、自分たちの意見をリアルタイムで交流することで意見に広がりが見られた。
- ・林間学校という同じ目的をもった東西小学校の児童が、同時に話し合いを行うことで、東西小学校の児童が相手の学校のよい意見を取り入れながら、話し合いを深めることができた。

##### ○課題

- ・Kシステムを使用した交流では、相手と目が合わなかったり、あいづちが分かりにくかったりするため、慣れるのに時間がかかる児童もいた。カメラの位置などを工夫したい。